



地域支援コラム

【2学期の巡回相談について】

○学習・自立活動等の指導2 (C小学校：1年生女子)

C小学校の肢体不自由がある1年生女子児童の2回目の巡回相談では、引き続き学習の仕方や自立活動、他児との関わり方等について相談を受けました。図工(通常の学級)「クリスマス製作」は、色画用紙とハサミを使用していきました。助言として、カスタネットハサミを用いる際、教員がハサミを本児と一緒に持って使用していた場面で、テーブルに養生テープでハサミを固定することで本児が自分でハサミに手を置いて一緒に切ることができることを伝えました。また、色画用紙を切る際に切るラインをペンで書き、視覚的にも分かりやすくしました。色画用紙の提示や、のりを貼る際に斜面台を使用することで、本児は製作物を見やすくなりました。本児にハサミの位置を伝え、ハサミに手を置くように言葉をかけると、手を動かしたりハサミに手を近づけたりすることができました。本児と一緒にサポート教員や担任の教員に完成を報告していると、他の児童たちも見に来て本児の作品を褒めてくれることがあり、本児もうれしそうにしていました。

自立活動(支援学級)では、前回に引き続きプロンボード立位の状態で手を使う学習について相談がありました。前回の相談後、①ストレッチの時間をとる。(足の曲げ伸ばしや、足裏ストレッチ<刺激を入れる>)。②足の血流不足対策のため、立った後にも様子をみながらふくらはぎや足首をマッサージする。を継続しておられ、以前よりもスムーズに立位が取れているように見受けられました。今回は、持参した手作り教材や斜面台を使用し、手を使う学習の進め方の具体例をお伝えしました。(教材は注目できるように提示してから、手を伸ばしやすい位置へ置くようにするなど)教材を使った活動の様子は以下のとおりです。

①ボール(感触の違う物4種類):

教員と一緒に触れると、トゲトゲボールには自分から手を伸ばしましたが、クッション素

材や、バタバタする素材は苦手なようでした。

②引っ張ると伸びる玩具：

よく見て、伸びる感触を少し楽しむことができました。

③クッションつみき：

言葉かけや誘導をすると積んだつみきを右手で触れ、倒れると喜んでいました。ひとつずつ手に取って両手で確かめることもありました。

④手作りボックス（チェーン・ベル・スイッチ・ボールはがしが付いた物）：

教員と一緒に活動を行うと自分から手を伸ばすことができました。ボールはがしは音や感触を楽しんでいました。

⑤バネ・ヘビの玩具：

バネは上下左右に伸びたり、縮んだりする動きを目で追うようにしていました。教員と引っ張り合いもできました。ヘビの玩具には声を出して笑顔で注目し、積極的に手を伸ばしたり、ヘビの動きに合わせてるように手を動かす様子が見られました。いろいろな遊び方ができること、コミュニケーションにも使えることをお伝えしました。

⑥斜面台：

布でできた感触型絵本を見るときは、平面で提示するよりも注目することで、両手を使ったり、自分でページをめくったりすることができました。

⑦タッチペン+目玉クリップ：端末を使用する際にすすめました。

全体的には、初めての感触や教材には少し抵抗があるようでしたが、慣れてくると興味がある教材へ手を伸ばすことができていました。今回は好きな物を見つけられるよう、いろいろな感触や動きが出る物を取り入れつつ、見ることや手を使う教材や活動をお伝えしました。また、教材をとおして「ほしい?」「もう1回する?」等のやり取りができること、本児からの要求を引き出し、コミュニケーションにもつながることをお伝えしました。担当教員からは取り入れられる所から始めるとの声もあり、今後の自立活動についてもまた様子を見に行く予定です。